

「ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト」

読書活動支援者育成事業 地区別研修

主催：福島県教育委員会

# 子ども読書セミナー

**目的：**読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さについて知る機会とするとともに、読書ボランティア活動への理解を深める。

I 実施日：平成28年6月16日（木）	場所：国見町観月台文化センター	参加者：42名
II 実施日：平成28年6月23日（木）	場所：福島市松川学習センター	参加者：43名
III 実施日：平成28年6月30日（木）	場所：あだたらふるさとホール	参加者：31名

## 第1部

10:05~11:00

### 講話「子どもの読書活動の影響と効果」 ～子どもへの読み聞かせをとおして～

講師：福島県立図書館 資料情報サービス部 専門司書 佐藤加与子 氏

#### 1 読書とは

- 読書とは活字からイメージを紡ぎ出すことであり、本の世界には過去や未来、空間を超えた世界が広がっている。読書は個の時間を作りだし、育てることである。

『本は、これから』池澤夏樹/編 岩波書店

『読書からはじまる』長田弘/著 NHK出版 参照。



#### 2 大人と読書

- 子どもの読書離れが続いている。1か月間に読んだ本が0冊の小学生は4.8%、中学生は13.4%、高校生は51.9%になっている。大人も（が）読書離れの傾向にあり、1か月に1冊も本を読まなかった16歳以上男女は47.5%となっている。私たちは何のために本を読むのかを見つめ直し、大人が良き読書人であることが大切である。

#### 3 子どもと読書

- 心の三大栄養素は、自然とのふれあい、人とのかかわり、本との出会いであるが、社会の変化により、子どもたちは今、心の危機にある。
- 子どもにとって読書とは
  - ①情報としての読書「子どもたちが知りたい情報を的確に把握して、知りたいことにたどりつけるよう手助けをすること = 回答を提示するのではない」
  - ②楽しみとしての読書「本は心の栄養 = 子どもの心を健やかに成長させるもの = 読む力は生きる力」
- 絵本は読むものではなく読んでもらうもの読んであげるもので、絵本の読み聞かせは「子どもと本との出会いを助ける」ものである。身近なところにいつも本があり、大人が読んであげることが子どもを本好きにする。

『子どもと本』松岡享子/著 岩波書店 参照。

## 4 読み聞かせと絵本

- ・絵本の読み聞かせは、楽しい読書の入り口に必要である。「読んで」と言われなくなるまで読んであげることが大切である。
- ・読みきかせがもたらすものは、心のふれあいや美しい言葉との出会い、想像・創造する力など目に見えない心や感性である。しかし、効果を期待して読み聞かせをするのではない。
- ・読み聞かせをするときは次のことに配慮する。初めはスタンダードの本を選ぶ、声に出して下読みをする、ゆったり、心を込めて読む、絵がよくみえるようにする、子どもたちの反応を見るようにする。
- ・複数の子どもに読む本を選ぶときには次の点について配慮する。絵がはっきりしていて遠目がきく本、絵と文のバランスが良い本、耳で聞いて美しい日本語の本、声に出して読んでみる、リハーサルをして確認する。困ったときは昔話・長く読み継がれた絵本・ブックリストなどを参考に選ぶようにする。
- ・絵本の持ち方・めくり方・読み方は次の点に配慮する。ぐらつかないように安定させて持つ、支える指やめくる手で絵を隠さないようにする、作者や画家名を伝える、開き癖をつけておきスムーズにめくる、よく通る声でゆっくり、子どもの様子を見ながら読む、感情移入しすぎず、声色を強調しすぎない、余韻を大切に読み終える。
- ・読み聞かせの後は次のことに配慮する。紹介した本のメニューを渡す、子どもたちが本を手にとれるようにする、おはなしかきの記録をつける、子どもたちの反応・感想や反省を次に活かす。



## 5 質疑応答

Q1：声色を強調していけないのはなぜですか。

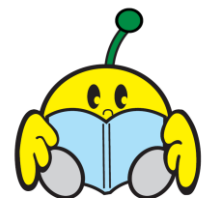
A1：読み聞かせは、子どもたちに絵本の世界を届けるために行うことが目的であり、子どもたちには絵や言葉からいろいろなことを感じてほしい。わざわざ声色を変えて演じる必要はない。また、感情を移入しすぎると子どもたちの関心が絵本から読み手に移ってしまう。読み聞かせの場合注目されるのは絵本である。

Q2：「余韻を大切に読み終える」とはどんな感じですか。

A2：最後のページを読み終えたら、空白のページも含めて、ゆっくりとページをめくる。最後に裏表紙を見せて終える。

Q3：第三次福島県子ども読書活動推進計画は手に入れることはできますか。

A3：県庁に少し残部があるので県北教育事務所経由で配付できる。  
また、ホームページからもダウンロードすることができる。



### 【参加者からの声】

- ・本を読むことがこんなにも良いことで、意味があることをあらためて知ることができました。自分の子に絵本を読む以外でも、自分のためにもたくさん読みたいと心から思います。
- ・参考になるお話しが、とても多くありました。今日教えていただいた本、絵本を是非自分でも子どもにも読んでみようと思いました。子どもを本好きにするには、まずは大人が本を読むことですね。



## 第2部

11:05~11:55

# 事例発表「読書ボランティア活動を通して」 演習「よみきかせ・かみしばい・わらべうたの実践」

講師：県北域内読書ボランティア団体

1 6/16 (木) 講師：よみきかせみみずく 代表

安藤 裕美 氏

### 1 会の発足

- ・町民講座「絵本よみきかせ」をきっかけに、仲間が集まり、よみきかせサークルとして平成21年4月にスタートした。今年度は10名で活動をしている。

### 2 主な活動

- ・定例の活動 活動内容は、年度ごとに総会で決め、今年度は2名が同時に同じ本を読んでいる。また、「おはなし会」の報告を行い、成果と課題を共有し、次の活動に生かしている。
- ・定例おはなし会 平成23年4月から町の文化センターでスタートした。現在は、くにみもたん広場で、よみきかせを中心に第2土曜日に30分程度で実施している。案内チラシを作成し、保育所、幼稚園に配布し、広報に努めている。
- ・国見小学校におけるおはなし会 平成25年1月からスタートし、各学期に1回、各学年15分程度で実施している。おはなし会で用いた本のリストを作成している。卒業時に、児童へ読んだ本のリストの配布を計画している。
- ・国見こどもクラブでのおはなし会 今年度よりスタートした。よみきかせを中心に月2回30分程度で実施している。

### 3 今後の活動

- ・今後の活動をより充実させるためにも仲間を増やしていきたい。
- ・会としてのおすすめ本などの小冊子を作成し、町民に手渡していきたい。

### 4 ボランティアを通して感じたこと

- ・ボランティア活動をすることで、向上心、学習意欲が増した。楽しく活動ができている。サークル活動を通して、多くの情報に触れ、見方、考え方が多様になった。

### 5 演習

- ・よみきかせ「めのまどあけろ」
- ・よみきかせ「かささしてあげるね」
- ・よみきかせ「トマトのひみつ」
- ・てあそび「ごまだんご」
- ・よみきかせ「ふるやのもり」
- ・よみきかせ「あめふりうさぎ」
- ・よみきかせ「999ひきのきょうだい」
- ・指人形「みどりのこびと」



#### 【参加者からの声】

- ・とても豊かな活動に、大きな感銘を受けました。読み手の特質は色々あるけれど、その人の良さを生かしてやるのが長続きするコツかと思いました。「ふるやのもり」の方の声、読み方、自然な読み分けがとても好印象でした。ありがとうございました。





1 会の発足

- 平成14年5月に松川公民館の「絵本よみきかせ講座」を受講した仲間が集まり、よみきかせサークル「エプロンおばさん」が6月にスタートした。今年度は6名で活動をしている。

2 主な活動

- 定例の活動 読み合わせを行い、おはなし会のプログラムを決めている。
- おはなし会 これまで松川学習センター図書室、保育所、幼稚園、小学校等で読み聞かせを行ってきた。新たに、老人保健施設等でも始めた。保育所では、年少には15分、年長には30分など発達段階に応じて実施している。

3 ボランティアを通して感じたこと

- 読み聞かせを通して、子どもたちに絵本や本を好きになってもらい、そして、楽しんでもらえればと思う。
- 子どもたちとのやりとりが楽しく、元気をもらい、たくさんの喜びを感じている。スーパーマーケットなど地域の中で会ったときにも子どもたちから声をかけてもらえるのがうれしい。
- ボランティア活動は、自分にできることを、自分のできる範囲で、少しずつ始められればと思う。読み聞かせを通して、絵本の持っている素晴らしい魅力を伝えていきたい。そして、その活動を通して読書ボランティアの楽しさを味わってほしい。

4 演習

- よみきかせ「めのまどあけろ」  
人形を使って、参加者も一緒に
- よみきかせ「だいじなおとしもの」
- かみしばい「はりきりおとうばん」
- よみきかせ「なんのにおい」
- 歌「おはなしゆびさん」  
指人形を使って
- よみきかせ「くじらだ」  
大型絵本を使って
- パネルシアター「やさいのおうさま」
- 歌「さよならあんころもち」  
参加者も一緒に



【参加者からの声】

- 「ボランティアは無理せず、できる範囲で」とおっしゃっていた言葉が印象的でした。若いママさんが気軽に参加できると良いと思いました。
- ボランティアの方々の頑張りや思いを知ることができ、心を打たれました。実演は子どもになった気分でもらえました。
- 楽しいプログラムをありがとうございました。様々なアイデアにびっくりしました。
- 近い将来、わたしもエプロンおばさんになりたいなと思いました。



### Ⅲ 6/30 (木) 講師：おはなしボランティアゆめこじ 代表 田辺 将裕 氏

#### 1 会の発足

- 平成11年に行政担当としてあだたらふるさとホールのおはなしボランティア活動に携わり、その後ボランティアとしての土台作りの研修等を実施し、平成16年におはなしボランティア「ゆめこじ」を発足した。「ゆめこじ」の名はゆめを運ぶこじはん（こじはんとは福島の方言でおやつのこと）に由来している。



#### 2 主な活動

- おはなし会** あだたらふるさとホール、大山公民館等で読み聞かせを行っている。読み聞かせや紙芝居だけでなく、工作、季節の歌、ゲームなども取り入れている。
- 年中行事再現** 端午の節句、七夕、お盆、お月見、だんごさし、節分、ひなまつりに合わせた企画を考え、実施している。端午の節句で実施した内容は、端午の節句に関わる話、紙芝居、歌、柏餅作りだった。
- おはなし会や年中行事再現の様子を新聞にして地域の方々へも配布している。

#### 3 ボランティアを通して感じたこと

- 子どもたちの笑顔に癒やされる。
- 自分自身が楽しむことをモットーに活動をしている。
- 子ども相手なので、一番言葉遣いに気を遣う。

#### 4 演習

- ビックブック「花さき山」
- ブラックパネルシアター「アラジンと魔法のランプ」
- 自転車紙芝居「黄金バット」



#### 【参加者からの声】

- 紙芝居は見たことがありましたが、自転車による紙芝居は初めてでよかったです。迫力ある音と声で子どもたちを楽しませていることがよく分かりました。ありがとうございました。
- プログラムの一つ一つが本物。私たちもがんばります。
- おはなし会、楽しく聞かせていただきました。
- 「紙芝居」ととてもなつかしくて良かったです。
- 私も活動に参加したいと思いました。

#### 【御意見・要望・感想（参加者アンケートから）】

- 大人からの発信とそのための環境作りの大切さ、公共図書館とともに学校での本と子どもとの出会いがますます増えていくことが望まれます。
- 自分も読み聞かせの活動をしていて、これでいいのかなと行き詰まる時がある。こういったセミナーに参加することで参考になり、間違いではないなど再確認することが出来、とても良かったです。時間の限り、またセミナーがあれば参加したいと思います。また、開催場所の団体の読み聞かせがよかったです。

